

『基礎と臨床をつなぐ 物理薬剤学・製剤学』 正誤表

いつも小社出版物をご利用いただき誠にありがとうございます。  
本書に以下の誤りがございました。深くお詫びするとともにここに訂正いたします。

該当箇所	誤	正
p.8 図 I-1-4 赤破線部	二次粒子	一次粒子
p.21 図 I-1-15 右下	40 時間 60 時間 80 時間	40 回 60 回 80 回
p.23 式 (13)	$V = \frac{P}{V_m} + \frac{1}{V_m \cdot k}$	$\frac{P}{V} = \frac{P}{V_m} + \frac{1}{V_m \cdot k}$
p.24 図 I-1-17b (BET式;縦軸)	$\frac{P}{V(P_0 - P)}$	$\frac{P}{V(P_0 - P)}$
p.24 図 I-1-17b (BET式;傾き)	$\frac{C-1}{V_m \cdot C}$	$\frac{k-1}{V_m \cdot k}$
p.24 図 I-1-17b (BET式;切片)	$\frac{1}{V_m \cdot C}$	$\frac{1}{V_m \cdot k}$
p.29 下から 2 行目	図 I-1-18	図 I-1-22
p.63 10 行目(単位)	Pa · s	Pa · s <sup>-1</sup>
p.71 式 (9) 分母	高分子全体の分子量	高分子全体の分子数
p.72 下から 11, 12 行目	図 I-2-25	図 I-2-16
p.72 下から 4 行目	図 I-2-16	図 I-2-15
p.97 式 (9)	$V = \frac{V_m b P}{1 + b P}$	$V = \frac{V_m k P}{1 + k P}$
p.97 13 行目	飽和吸着量 $y_m$	飽和吸着量 $V_m$
p.100 図 I-3-14 付着ぬれ	$90^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$	$0^\circ < \theta < 180^\circ$
p.100 下から 5 行目	$0^\circ < \theta \leq 90^\circ$ の時, $W_i \geq 0$ となり	$0^\circ < \theta < 90^\circ$ の時, $W_i > 0$ となり
p.100 下から 4 行目	$0^\circ < \theta \leq 90^\circ$ , $W_i \geq 0$	$0^\circ < \theta < 90^\circ$ , $W_i > 0$
p.100 8 行目	$0^\circ < \theta \leq 90^\circ$ , $W_i \geq 0 \rightarrow$ 浸漬ぬれがある	重複により削除
p.101 下から 12 行目	$90^\circ < \theta \leq 180^\circ$ の時, $W_i \geq 0$ となり	$0^\circ < \theta < 180^\circ$ の時, $W_i > 0$ となり

青字は削除, 赤字は変更もしくは追加を表しています。